

# 行雲流水

No.70 令和3年7月5日発行

孤独を恐れず、独立の志を

校長 寒河江 正人

私は、**人と群れる**のが苦手だ。

誰かに**追従・迎合する**のは、もっと苦手だ。疲れる。

さて、生徒諸君は、どうかな？

**福沢諭吉**が個人の独立を説いた著書「**学問のすゝめ**」には、まるで「**孤独のすゝめ**」かと思えるような言葉がたくさん記されているのだ。

「**独立の氣力なき者は、必ず人に依頼す。**

**人に依頼する者は、必ず人を恐る。**

**人に恐るる者は、必ず人にへつらうものなり。」**

「**恥ずべきを恥じず、論ずべきを論ぜず、**

**人をさえ見れば、ただ腰を屈するのみ。」**

私たち日本人には、もともと染みついた**同調傾向**がある。

そこには、長い歴史の過程を経た社会的・文化的な背景があり、同調・調和の良さもある。

しかし、常に人と一緒に行動することばかりに腐心していると、自分「ひとり」独立して考える時間が奪われることにもなりかねない。

本来、自分自身を成長させるはずの**貴重な「ひとり」の時間**が保障されなくなるのだ。

すると、日常的に**安易に人を頼る**ようになり、それを繰り返すうちに、**慣れてあたりまえ**になり、**自分では何も行動（思考・判断・表現）できなくなりかねない。**

中学生という発達段階は、少しずつ**群れから独り立ちする練習**が必要な時期でもある。

決して**孤独**を恐れず、「ひとり」の時間を楽しみ、それを「**自分自身の成長を促す時間**」に変えていこうではないか。

「**人としての本当の強さ**」は、誰かから与えてもらえるようなものではない。

**独立した志**をもって生きようとして、自分自身に適度な「**負荷**」をかけていかなければ、生まれないし、身につかないものなのだ。